卒業生その人に聞く

ロンドン五輪目指す マウンテンバイクで勝負

卒業生その人に聞く

片山 梨絵 KATAYAMA Rie

自転車競技女子 マウンテンバイク選手 × 岡山大学理学部卒 自然科学研究科博士前期課程修了

岡山大学在学時にマウンテンバイクに出会う。
現在全日本選手権８連覇中と、第一人者として日本を引っ張る。
2008年、北京五輪に出場。2010年にはアジア大会で銅メダルを獲得した。
2012年、ロンドン五輪出場へ照準を定め、勝負をかける。

山道を走り順位を競う

マウンテンバイクで山道を登ったり下ったりして、1周5～7キロほどのコースを5、6周し、順位を競うクロスカントリーに出場しています。山道なので開催場所によって時速が違い、陸上などと違ってタイムの記録はあまり意味を持ちません。

現在は、7～8月にかけて行われるロンドン五輪出場に向け、主にヨーロッパで行われる海外のレースに出ています。ロンドンに出るためには、世界における日本の国別ランキングを上げ、枠を取らないといけません。日本は現在、出場できるか非常に微妙な状況にあります。マウンテンバイクは1996年のアトランタ五輪で正式種目になってから、シドニー、アテネ、北京と出場が続いているので、絶対に途絶えさせない気持ちで頑張っています。

在学中に全国初優勝

自転車に出会ったのは岡大のサイクリング部です。軽い運動ができるさわやかなイメージと旅ができる楽しさから選びました。大学1年の秋、4年生の先輩が旭川の河川敷を回る小さなクロスカントリーレースに出場していました。応援に行ったら「出ろ」と言われ、準備もなくいきなり出場しました。これがレースとの出会いです。この時はまさか競技をずっとやるとは思っていませんでした。

4年生で忙しくなり、時間に余裕がなくなる中で続けていたのが自転車です。下宿先から大学までの通学を、自転車で遠回りなどしているうち、スピードが上がっていきました。修士2年になる前の春休みに本気で練習に取り組むと、その年、全国大会「ジャパンシリーズ」で初優勝しました。この時の仲間の笑顔が忘れられません。自分が頑張ることで人を喜ばせられることに価値を感じ、マウンテンバイクを続けようと、選手になりました。

自然を駆ける魅力

マウンテンバイクでは「非日常」を味わえます。泥を巻き上げながら自転車で自然の中を駆け抜ける爽快感は日常では感じられない魅力です。普通の自転車と違い、岩や木の根を乗り越える縦の動きやコーナーを急に曲がる横の動きなど、3次元の動きが多く、技術的なやりがいも大きいです。危険な下りを「転ぶかも」という恐怖と戦いながらクリアできた瞬間は最高です。

競技に対しては、常に新しいことに挑戦し、新しい環境を求め、自分が変化することを心がけています。専門とは違う種目に出て新しいライバルを見つけ、積極的に未知の場所に出て行くなど、同じことを続けないようにしています。

世界にいるライバルは、自分の可能性を引き上げてくれる存在です。ライバルが好成績を残すと「私もやれるはず」と頑張れます。もちろん勝ちたいと思ってやっていますが、それ以上の一番のモチベーションは「自分がもっと強くなる」というところにあります。

やり残した舞台へ再挑戦

北京五輪に出場した時は、その半年前に足を骨折しました。トレーニングが十分できず、満足のいくパフォーマンスが発揮できませんでした。周りから「日本人過去最高位」を評価してもらえますが、「もっとやれた」という気持ちがあります。五輪にはまだまだやり残したことがあります。自分がもっと強くなって出たいという気持ちがロンドンへの思いです。

北京の時とは練習やレースへの取り組みなど質が全然違います。これまでの4年間は積極的にヨーロッパのレースに出場し、世界のトップレースを走ってきました。ロンドンに出場できたら、世界のトップの中で〝勝負〟ができるのではないかと思っています。

かたやま　りえ　（32歳）
▶1979（昭和54）年　大阪府吹田市出身
▶2002（平成14）年　岡山大学理学部卒
▶2004（平成16）年　岡山大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了
▶2004（平成16）年　全日本選手権優勝（現在８連覇中）
▶2004（平成16）年　世界選手権出場（現在８年連続出場中）
▶2004（平成16）年　アジア選手権優勝
▶2008（平成20）年　北京五輪出場（20位:日本人男女通じ過去最高位）
▶2010（平成22）年　アジア大会銅メダル獲得